

実証事業実施者

水ing株式会社・仙台市 共同研究体

実証フィールド

仙台市広瀬川浄化センター・郡山ポンプ場・霞目ポンプ場・国見第一ポンプ場

実証の概要

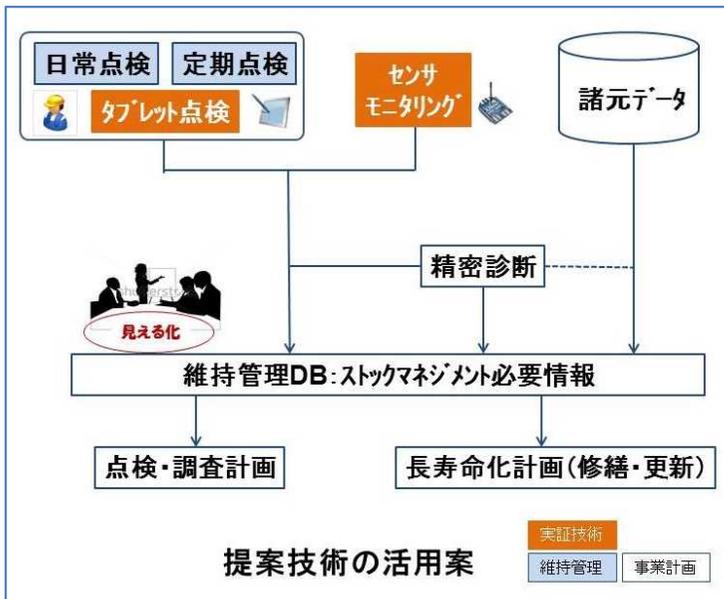
振動等を測定するセンサーによる24時間監視データと、日常点検記録をタブレットに入力したデータをクラウドサーバに集約し、劣化診断と予測を行う技術を実証する。この実証技術により、施設の維持管理の費用抑制や効率的な修理・更新を実現する。

☆技術その1

センサーによる
機器状態モニタリング

☆技術その2

タブレットによる
点検効率化・情報活用



提案技術により期待される効果と革新性

下水道設備の稼働状況の監視および毎日の点検情報の見える化と、業務を効率化する点検システムを組み合わせ、施設の管理レベルをさらに高め、施設の維持・更新にかかるコストの縮減効果を実証します。

①センサーによる機器状態モニタリング

ポンプ・ブロワ設備にセンサーを設置し、振動等を連続監視・データ化する事で、劣化による不具合の早期発見などを通じて、より効率的な修理・更新計画の作成・実施が可能になります

②タブレットによる点検効率化・情報活用

これまで紙記入されていた点検情報を、現場でタブレットに直接データ入力することで、異常値の把握やクラウドサーバ集約による迅速な情報共有が可能になります